

環境問題の現場 における超学際 研究の新展開



写真提供：浅野悟史

日時 2016年10月9日(日) 13:00 ~ 10月10日(祝) 12:00

場所 総合地球環境学研究所 講演室

世界各地で多発する環境問題に対処するために、「社会のための科学」の実現が喫緊の課題となっています。環境問題を解決するためには、社会の多様なステークホルダー（利害関係者）との協働、すなわち科学者が科学知、意思決定者が政策知（ガバナンスの知）、生活者が在来知（なりわいの知）を持ち寄り、熟議と相互理解を通して合意形成に至る超学際アプローチ（transdisciplinary approach）が必要であるといわれています。ステークホルダーは多層的であり、ステークホルダー間の利害調整や対立、政策決定者との関係など、超学際に関わる科学者が理解しておくべき課題はたくさんあります。そこで本ワークショップでは、環境問題の現場におけるステークホルダーとの協働の実践例を共有することを通じて、社会における科学の役割と、課題解決への科学者の関与のあり方について議論します。また、リモートセンシングやオープンデータといった新しい情報源の活用について、関連する諸分野の研究者や地域社会の識者と意見交換を行うとともに、参加者間の対話を通じて環境問題の現場における超学際研究の現状と課題を整理し、地球環境研究が今後進むべき方向性を予察します。どうぞふるってご参加ください。

プログラム ※プログラムは予告なく変更される場合があります。

10月9日(日) 12:30 開場

- 13:00 イントロダクション／近藤昭彦（千葉大）、近藤康久（地球研）、木本浩一（関西学院大）
- 13:30 基調講演「科学技術を社会にどうつなげるか；超学際研究の実践と方法論」／安岡善文（千葉大）
- 14:00 セッション1：閉鎖性水域におけるステークホルダーとの協働／小倉久子（環境パートナーシップちば）、浅野悟史（地球研）
- 15:00 セッション2：原子力災害におけるステークホルダーとの協働／小林達明（千葉大）
- 15:30 セッション3：森林保全におけるステークホルダーとの協働／蔵治光一郎（東京大）
- 16:00 セッション4：乾燥地におけるステークホルダーとの協働／清水貴夫（広島大）、祖父江侑紀（千葉大）

10月10日(祝) 9:30 開場

- 10:00 セッション5：リモートセンシングとステークホルダーの連結／濱 侃（千葉大）、楊 偉（千葉大）、近藤康久（地球研）
- 11:00 ディスカッション
- 12:00 閉会

参加無料
申込不要

問い合わせ

総合地球環境学研究所
研究基盤国際センター
近藤康久
kondo@chikyuu.ac.jp
http://www.chikyuu.ac.jp

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
Research Institute for Humanity and Nature
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4

アクセス

- 地下鉄烏丸線
京都駅 → (20分) → 国際会館駅
→ 京都バス40系統「京都産業大学ゆき」または
50系統「市原ゆき」または
52系統「市原經由貴船口・鞍馬・鞍馬温泉ゆき」
→ (6分) → 地球研前 バス下車すぐ
- 京阪沿線
出町柳駅 → 叡山電車鞍馬線(17分) → 京都精華大前駅
→ (徒歩10分) → 地球研

マイカーでのご来場は固くお断りします。
公共交通機関をご利用ください。

